

KU-MMA 第11・12号 合併号

Kodomo Uchu Mirai Association ニュース

“宇宙を視座に大人が変わる 子どもが輝く 美しい星が生まれる”【子どもと宇宙と未来をつなぐ】



平成28年度 KU-MMA 通常総会
6月13日(月)開催
今年も通常総会がプロミティふちのペビルの会議室にて開かれ、21名の出席者と104名の委任状を以って、提案などもいただきつつ、議案が承認されました。

◆28年度事業計画基本方針

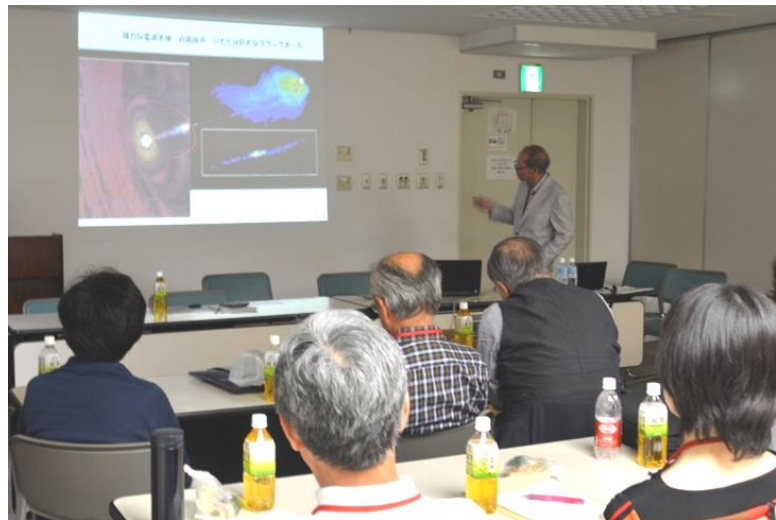
事業の大きな柱である「宇宙の学校」を、JAXA 宇宙教育センターと協力し内容を深めつつ自立化を促進し継続する。このため指導者セミナーの実施等にあたって、理念内容の確認に留意する。

また、企業との協力による教育 CSR 事業をさらに開拓し実施する。

KU-MMA の理念確認、活動の充実のため、セミナー、講演会等を積極的に実施する。

ホームページ、メールマガジン、KU-MMA ニュースを継続して発信し、社会への周知、会員との連帯を図る。

資金計画の安定化を計る。特に寄付金は今年度も引き続き重要対処項目である。また、実行計画にみあった効率の良い運営体制の実現に努力する。



▲総会後の懇談会での平林会長による講演



講演のあとは、4つのグループに分かれ、「宇宙の学校」のスクーリングで行われている熱気球作りにチャレンジ！お題は「小さくても浮く気球」小さな気球づくりにチームで取り組みました。小さくても浮くように形を変えたり、セロハンテープの量を減らしたりと工夫されていました。簡単な作業ですがみんなで取り組むととっても楽しかったですね♪

■KU-MA 活動紹介【平成28年5月～9月 活動報告】

◇5月第一回理事会
◇6月13日 KU-MA 通常総会

●宇宙の学校事業

各学校がスタートしました。

<5月>

狭山市/相模原市(相模原、しろやま合同)/横浜市(たまプラーザ、洋光台)/静岡県長泉町/知立市/沖縄市/沖縄県西原町/那覇市など全国10カ所で開校

<6月>

網走市/釧路市/岩手県紫波町/一関市/千葉市/松戸市/新宿区/国分寺市/立川市/東大和市/多摩市/多摩市東寺方/八王子(工科大学会場)/甲州市/金沢市/三島市/小牧市/松江市/岡山県和気町/新見市/長崎市など全国21カ所で開校

<7月>

青森市/弘前市/足立区/練馬区/町田市/八王子市(教育センター会場)/八王子市(北高校会場)/伊那市/奈良市/岡山県/出水市など11カ所で開校

<8月>

塩竈市が開校！！

<9月>

青梅市が開校！！

夏休みは、家族で家庭学習の活動をすすめてもらえる時期。9月ごろ、テキストを使って、実験や工作したものがあるか聞いてみたら、アイスクリームを作ったり、万華鏡や切り絵など・実験したことを教えてくれました。色々な会場で聞きました。実験したことを自由研究として学校に提出したという方が何人もいました。

●イベント支援

- ・宇宙の教室 幼稚園でのロケット教室 (岩手県奥州市)
- ・講演とワークショップ (山梨県甲府市) 山梨県立図書館
- ・講演とロケット教室 (愛知県知立市)
- ・宇宙の教室 ロケット教室 (東京都)
- ・ロケット教室 (東京都日の出町)
- ・教員研修支援 (東京都) など

●企業 CSR 支援

- 6/26 MHI 札幌支社 理科授業
 - 7/27.28 CKD 株式会社 モノづくり教室
 - 7/29 MHI 児童館でのロケット教室支援
 - 8/1 MHI 本社東北支援 理科授業
 - 8/4.5 MHI 神戸造船所サマースクール
 - 8/22 MHI 中高生向け理科授業
- たくさんの笑顔に出会えた夏でした。

■宇宙の学校で

6月、沖縄県にある3校(牧志駅前ほしぞら公民館、西原町中央公民館、沖縄県青少年センター)の開校式に参加を予定していた並木理事は、前日の移動時に羽田空港の火災により移動ができませんでした。現地到着は、一番早くて翌日(開催当日)の午後。その日は、午前・午後と2カ所で開催が有り、両方に参加する予定でしたが、午前中の会場へは参加ができませんでした。理事が参加できなかった開校式のおはなしやスクーリングの実験などは、那覇市牧志駅前ほしぞら公民館の「宇宙の学校」スタッフが急遽サポートし行ってくださいました。ありがとうございました！！

先日、弘前の「宇宙の学校」へ参加した時のことです。会場の弘前市立時敏小学校の校舎に入るとすぐに目に飛び込んできたのは「和顔愛語」の書でした。遠藤先生が亡くなる少し前に、『周りにいる人たちみんなそうでしょ』ってやさしい笑顔で話して下さった瞬間が甦り、パワーが... この日のスクーリングは、「ロケット」と「種子のふしぎ」1年生くらいの女の子が寄ってきて『「宇宙の学校」ってすごいわね。入って良かった』と笑顔で話してくれました。それを聞いていた地元のスタッフも満面の笑み。笑顔や嬉しい想いは連鎖していきますね。

■KU-MA なひとびと

総会、懇談会の終了後、懇親会が開かれました。今年は淵野辺駅前の某居酒屋さんです。18名の会員が参加しました。今年は、一言ずつですが、自己紹介を行い、楽しく歓談しました。みなさん魅力的な方々ばかりで、アツという間の2時間でした。会員のみならず、総会、懇談会、懇親会などで今後も KU-MA 会員同士の交流を深めましょう。ご参加をお待ちしております。



小川理事や並木理事、会員担当の安藤さんの姿も...事務局もみなさんに会えるこの日はとっても楽しみです！

■会員状況(平成28年9月現在)

正会員 243 (個人:220 学生:0 企業・団体:23)
賛助会員 54 (個人:38 企業・団体:16)

みなさまの会費や寄付金が運営費の一部となり、KU-MA 活動を展開させていただいております。日頃のご支援に心より感謝を申し上げますとともに、引き続き、活動および活動資金へのご協力をお願いいたします。

■会員募集中！！

- ◇正会員：KU-MA のミッションに賛同し、活動を推進する個人/法人・団体
年会費 個人：10,000円(学生5,000円)、法人・団体：50,000円
 - ◇賛助会員：KU-MA のミッションに賛同し、寄付いただける個人と法人・団体
年会費 個人：1口1,000円、法人・団体：1口50,000円
- ※個人賛助会員への会員証、メールマガジンの送付は5口以上からです。

■編集後記

今号は遠藤先生の追悼特集として、KU-MA ニュース11.12号分を合併し、特大号でお届けしました。遠藤先生との記事をお寄せくださったみなさま、ありがとうございました。今号の編集作業中、遠藤先生との時間や色々な事があるふれだし涙する日も。この季節になると、紅葉狩り(カエデの採集)に行ったことを思い出します。数か月過ぎた今も、お昼前になると「お昼食べた?これから事務所に行くから、一緒にランチしよう」と電話がかかってくる気がします。遠藤先生は KU-MA や宇宙教育にたくさんのご縁を残して下さいました。すべてみんなの未来のため。想いをつないでいきたいです。(い)

■会費や寄付金のお振込先

【会費や寄付金のお振込先は下記の口座へ】
横浜銀行 淵野辺支店 普通預金 1768456
特定非営利活動法人子ども・宇宙・未来の会
会長 平林久

今あなたができる未来のこと
子どもたちの未来を拓くキーパーソンはあなたです

NPO法人 子ども・宇宙・未来の会 「宇宙の学校」事務局
〒252-5210神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1 JAXA内
電話・FAX：042-750-2690
E-mail：KU-MAS@ku-ma.or.jp
ホームページ：http://www.ku-ma.or.jp
「宇宙の学校」は、JAXA宇宙教育センターと当会の協働事業です

会員 たのしい教育研究所 代表 喜友名 一(沖縄県)

たのしい教育研究所を強く応援して下さった遠藤純夫先生が、2016年7月2日夜、その魅力に満ちた生涯を閉じました。

その日、病気療養中のお見舞いと、沖縄のゴーヤーやヨモギなどを抱えて飛行機に飛び乗りましたが、最後の時に間に合わせることはできませんでした。しかし、羽田から列車に飛び乗って移動の途中、ご家族の方のとても暖かい配慮のおかげで、遠藤先生の最後の時、電話で直接語りかけることができました。心から感謝いたします。

心から湧き上がる大切な想いをいくつもお伝えしましたが、遠藤先生の息遣いは、私のその言葉にはっきりと「はい」と答えてくれている様に聞こえていました。

「死をもって人は幕を閉じる」といいます。しかし違います。

人は人との関係によって生き続けます。

遠藤純夫先生の魅力あふれる人柄は、日本各地にたくさんのお影響を与え続けていきました。東京から遠く離れた沖縄にも数え切れないほど、足を運んでくださっています。そしてたのしい教育研究所のメンバーは、遠藤先生から大切なことをとてもたくさん学ばせていただきました。

これからも、沖縄の地で、遠藤純夫先生の魅力あるDNAを元気に育てていきます。その想いを新たにす意味で、たのしい教育研究所設立の時、遠藤先生が書いてくださったメッセージの一部を記させていただきます。



▲牧志駅前ほしぞら公民館「宇宙の学校」開催時 喜友名さん



▲沖縄のたのしい教育研究所のみなさんと会食

「たのしい教育研究所」の設立、本当におめでとうございます。

これまで数々のイベントで一緒にしてきましたが、熱意・アイデア・チームワークの良さなど、沖縄の皆さんの力には目を見張るものがあります。

皆さんの活動は、きっとこれからの世の中に、無くてはならないものになるでしょう。

これからも一緒に、たのしい教育活動に取り組める事を光栄に思っています。

遠藤純夫

遠藤先生から KU-MA ニュースへいただいた原稿の一部を紹介します

「ある日(便利な言葉ですね)」自宅の電話がなって、的川先生を紹介していただきました。その時、「日本の子供たちに何かしてあげたいな。」とおっしゃっていました。その頃、中学校では、家庭内暴力や校内暴力、いじめなどの社会問題が学校に降りかかって困っている時期でした。学校では、教育相談という手法で対応していました。子供は、学校のカリキュラムだけでなく、身近な自然の事象や実生活、周りの人々と交流しながら成長していきます。

的川先生を見ていると、笑顔が素敵でした。笑顔は笑顔と呼ぶのだなあと感じました。先生を見ているうちに、私は、「和顔愛語」というのがあったと思いました。何か協力したいと、私も思いました。

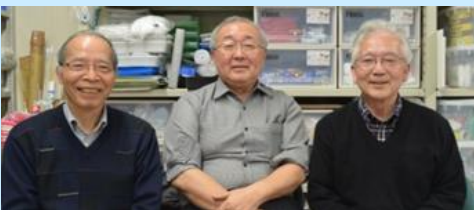
何か都合の悪いことがあると、大人は隠すけれども、子供は隠さないのは、なぜだろうと思っていました。生まれた子供を抱きしめているときの保護者の心音やまなざしを感じているからに違いありません。よく、「家の子は人見知りするんです。」等と言われたことはありませんか。保護者の存在がそれだけ大きかったのではないかと思います。

私たち「子ども・宇宙・未来の会」は、地域主催者やJAXAと共催し各地域で子どもと「保護者」が年に数回、小学校の体育館などで家族で科学的な工作をしています。

周りの大人が、子供の能力を伸ばしていくためには、テキストをつくり、「ナスにあって、キュウリにないものはなあに」と問いかけることで子供は違いに気がつくはずですよ。

社会の課題は、子供が起こしているのではなく、大人の変化によって、子供が同じようにしようとして起きているもので、貧しかった時代から懸命に努力したが、豊かさだけでは子供が育たない。社会を鏡に子供が変わったのです。

宇宙の学校に行ってみると、そこにいる家族が笑顔で集まっていることに気づきました。ブルーシートに集まった家族が挨拶をすることの意味もおわりのことだと思えます。



▲KU-MAの三賢人

遠藤純夫先生を偲んで

宇宙教育やKU-MAのプログラムを作り、自ら全国を飛び回って活動の普及に尽力された遠藤純夫先生が、平成28年7月2日逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

特大号となる今号では、会員の方々から寄せられた遠藤先生の思い出と写真でその功績とお人柄を振り返ります。

遠藤先生との旅
—— 無方の空に ——
会長 平林久(神奈川県)

「子ども・宇宙・未来の会」にとつてたいへん大切な遠藤先生が亡くなられました。会の設立、そして大きな活動である「宇宙の学校」の性格づくりから具体化へと大きな役割を尽くされました。先生はあの個性のままに、私たちの心の中に生きておられます。あのような魅力的で自由で飾らぬキャラクターを忘れることはありません。

先生とはいろんなところで一緒に過ごしました。そして、いろいろ教えていただきました。初めてお会いしたのは、10年ほど前、八ヶ岳のふもとの清里で、東京日野の生徒さんたちと合宿した時でした。みんな原をつつきり谷をいっばい歩いて、葉っぱと岩石のことを学びました。遠藤先生が先頭をせつせと歩きました。まだKU-MAができる前のことでした。

KU-MAができて「宇宙の学校」が開かれると、いろんなところで一緒に過ごしました。長野県生まれの私は小学校6年生の修学旅行に、新潟県の柏崎で初めて海を覗きました。その町には高校1年生の遠藤先生がおられたはずなのです。函館の「宇宙の学校」のあと、海を覗ながらこんなことを話しました。海は大きな宇宙への足がかりだったのです。

そして函館の海をバックに写真を撮っていたきました。岩手県では地元阿部恵彦先生のお世話で、げいぶ幼稚園に打ち合わせにいきました。となりに「賢治と石のミュージアム」がありました。そこには賢治の「農業芸術論」の一節「まづもろともにかがやく宇宙の微塵となりて無方のそらにちらばらう」という碑の拓本が飾ってありました。これを真ん中にして2ショットの写真が残りました。僕らはまさに微塵となつて飛びまわっているのだなあと思いました。大事な思い出の写真です。

沖縄では、役所の教育課にまわつて気さくに話したり、「宇宙の学校」現場をいくつかまわりました。沖縄戦ではもつとも多くの犠牲者が多い辺りでした。

他にもいくつもあれるけれど、熊本の話も書きましよう。多良木での「宇宙の学校」にいくために、私たちはレンタカーで流域をさかのぼつていきました。朝早くて名物の霧が濃いく中を走つていきました。少人数の皆さんとの集まりが終わると、鹿児島空港まで。



▲岩手県一関市「石と賢治のミュージアム」にて

ところが、途中の人吉市には名だたるウナギの蒲焼やさんがあるので、蒲焼に目がない遠藤先生です。ところが、急いで注文をしたはずの鰻が、なかなか現れません。しかし、ドキドキしながらも蒲焼を食べ、なんとか飛行機の便に間に合ったのです。

最期となつた2016年、先生にはもつともつとゆつくりと、鰻も何も楽しんでいただきたかった。心よりご冥福をお祈りします。

—— 遠藤先生と過ごしたなつかしい日々



▲KU-MA元職員 山村さんと



▲「宇宙の学校」でこっそり作っていたのは・・・ふわふわスチロールいったんもめん風



▲KU-MA運営委員会後 宇宙科学研究所 桜の前で

「イーハトーブ岩手の地」の時間
 会員：阿部 恵彦 (岩手県)

2016・年明け早々、遠藤純夫先生の息子さんの名で郵便物が届きました。

お手紙と、発行日 1月5日の大日本図書季刊誌『たのしい学校』2016・冬号(Happy School 2016 Winter)が入っていました。お手紙には、遠藤純夫先生のご様子や私が送り届けた「宮澤賢治詩碑拓本」を見て喜ばれていましたと記されていました。

この季刊誌は、「算数・理科・生活・体育」の教材研究誌。2016冬号の特集は、「論点整理」が示す、次期学習指導要領の理念と全体像。遠藤純夫先生の理科執筆ページは、見開き全面カラー印刷。私が撮影した、ハクチョウの滑空も活かしていただいていたの「身近なものから宇宙を感じる『無重力の世界』ISSの中の様子と地上の生活をくらべよう」というものでした。

新年早々、発行ほやほやの教材研究誌を、いち早くお届けいただき大変嬉しかったです。

遠藤先生との思い出

会員：(二財)日本宇宙フォーラム

渡辺 勝巳 (千葉県)

2005年にJAXA宇宙教育センターが発足し、それまで経験のない青少年教育活動を進めるに当たり、遠藤先生には様々な角度からご指導を頂きました。そのような中、先生と一緒に地方の教育現場に行き直接ご指導を頂くことも数多くありました。中でも北海道別海町でのことは大きな思い出です。

別海町で開催される教育イベントでの講義のために、前泊するホテルについて遠藤先生から『別海町の近くの養老牛温泉というところの【湯宿だいいち】に泊まらしましょう。実はそこに夜な夜な天然記念物の【シマフクロウ】が来るんです!』。その時の遠藤先生の表情、眼差しは、まさに宝物を探しに行く少年のような輝きに満ちていました。

ホテルでの食事や温泉に入りくつろいでいると、フロントから『シマフクロウが来ました』との電話。二人してフクロウが来ているロビーへソート。意外と大きいのに驚きながら、部屋に戻ってからは夜も更けるのも忘れてシマフクロウの話を。今でも、その時の遠藤先生の優しいお顔の中の好奇心あふれる子供のような眼差しが目に浮かびます。

K.U.M.A総会の前に、事務局から、自宅で療養中の遠藤純夫先生を訪れたとのことでした。「筋力・体力をつけることに努めておられました」「よろしかったらお電話でも入れてあげてください」とのご連絡をいただきました。そこで、筋力・体力をつけてくださいと、恵彦産米「ひとめぼれ」を送り届けたいとしたところでした。訃報を耳にしたのは、その後間もなくのことでした。誠に残念でなりませんでした。

岩手「宇宙の学校」に、5・6回、足運びされたでしょうか。ご活躍のご様子は、その都度、写真記録として事務局に届けてきました。



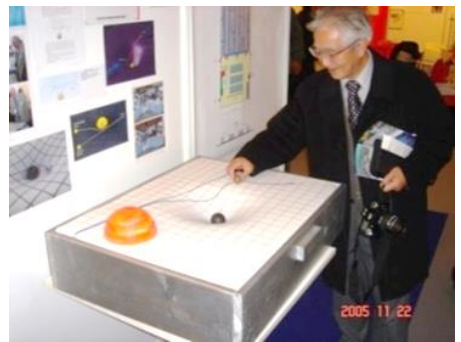
▲ポラテアスチア原子内(はらしない)さん(左)の自宅前にて、阿部さん(右)と一緒に

私事で恐縮ですが、その後2回、家内を連れて【湯宿だいいち】に行きました。すぐ横を流れる冷たい川のせせらぎに包まれた露天ぶろで粉雪が舞ってきた時、『素敵な情景だね!』と遠藤先生がしみじみと言ったのを思い出しながら、その温泉に何度もつかりました。また、近いうちに行こうと思っています。

もう一つ、忘れられない思い出があります。2005年11月、スイスのジュネーブで開催された「Science on Stage」(ヨーロッパの高校の理科の先生方がそれぞれ工夫を凝らした教材や体験学習などを展示・紹介するイベント・シンポジウム)に、遠藤先生・当時宇宙教育センターにいた知久建美さんと一緒に行ったことでした。展示会では、遠藤先生は持ち前の子供のような好奇心で熱心に教材を見て、その教材を作った先生と直接意見交換をしていました。その時の先生の様子は、まさにおもちゃを手にした一人のいたずらっ子の表情のようだったことが強く印象に残っています。



2005 11 22



2005 11 22

▲スイス・ジュネーブ「Science on Stage」展示会場で



2005 11

▲スイス・ジュネーブのレストランで(隣は知久さん)



▲スイス・ジュネーブのホテルロビーで、拾い集めた枯葉を前にいろいろなお話



▲長崎「宇宙の学校」講師 渡辺勝巳さん

各会場で、講師・遠藤純夫先生のご紹介は、最新号の科学雑誌「Newton」連載『水谷編集長の宇宙工房』のページを紹介しながら行いました。この連載は、水谷仁(Newton編集長・遠藤純夫(JAXA宇宙教育センターアドバイザー)の二人三脚で展開されていたものです。我が家にて、私の自作実験装置を目にし、「水谷先生にお伝えすると、水谷編集長さんは喜びますよ」と言われました。連載は、後に、別冊「Newton 水谷編集長の実験と工作 1・2」として発行・発売され、宇宙教育活動に資する優れた書籍として輝き今があります。講師・遠藤純夫先生紹介時、科学月刊誌「Newton」を使つてよかつたなあと思ひ出しています。

岩手入りした、夕食・昼食時には、日本一の田舎全国最大級の扇状地・田園地帯阿部宅に立ち寄つていただきました。食をともにしたことは大変貴重な勉強の機会となりました。空気が美味しい。水が美味しい。空がきれい。石や岩石ゴロゴロの庭を眺め、にこにこしておられました。鍋が美味しい。なんでも美味しいと箸を動かしていた姿に我がパートナーは喜んでいました。



夕食の前に、ホテル狩りに出かけたこともありました。移動中の車窓から飛ぶ鳥に視線・カメラを向けられシャッターをきつたりしながら喜んでおられました。雪解け時は、我が家周辺の田んぼにハクチョウが舞い降ります。さまざまな姿のハクチョウの写真を差し上げたところ、大変喜んでいただきました。正月早々の「身近なものから宇宙を感じる『無重力の世界』ISSの中の様子と地上の生活をくらべよう」のなかの滑空ハクチョウの写真は、そのなかの一枚なのです。活かしていただき嬉しかったです。

「好奇心」・「探求心」旺盛なお姿、しかも、もの静かな雰囲気の中に理路整然と思考するお姿の素敵な紳士・遠藤純夫先生直直、イーハトーブは岩手の地に「宇宙の学校」の種を蒔き・育てていただき、いわての子どもたちに夢を与え、耕していただきましたことに感謝を申し上げます。『まづもろともに かがやく宇宙の微塵となりて 無方の空にちらばらう』(宮澤賢治)お導き、どうもありがとうございました。

常に、子供たちのことを考え、無邪気ないたずらっぽい素敵な笑顔の遠藤先生。せめてもう一度、遠藤先生のあの笑顔にお目にかかり、いろいろと教えて頂きたかったと思つています。遠藤先生のご冥福を心からお祈りいたします。



「指導者育成」つなぐ・広げる



「宇宙の学校」豊かな未来のため



「市民講座」



「次世代育成」理科授業・ものづくり教室で企業と子どもたちをつなぐ

国分寺の科学センターで
遠藤先生を中心に教材の開発
会員：国分寺「宇宙の学校」
前校長 松澤 俊志（東京都）

遠藤先生から「宇宙の学校」を国分寺でやってみようと言われた時、遠藤先生が言われていた宇宙教育が、いよいよ実現に向けて動き出したと思いました。

遠藤先生は立川の中学校の校長を退職された後、国分寺の教育委員会に嘱託で入ってこられ、今の科学教室の講座の基本を作り上げました。

大島の小学校の校長を退職されて嘱託で入ってこられた山下先生や私も、一緒に教材を作ってきましたが、まず、遠藤先生が教材の原案やアイデアを出され、それをもとに検討を重ねて教材を作り上げていく。遠藤先生が原案を出される時には、先生の頭の中には子供たちの活動の様子ができているようで、先生が提案された内容に沿って進めていくと素晴らしい教材が出来上がっていくのです。うまくいかなかった教材の場合は3人で手直しをするのですが、山下先生や私が出した方法を必ず活かす形で遠藤先生がアドバイスを出し進めていく。遠藤先生の能力・人柄に感服し教材開発を進めてきました。

三人で勝浦の海岸で海ほたるの採集、山梨の清里でカエデの葉の採集をし、それを基に楽しく教材開発を進めてきたことを昨日のこのように懐かしく思い出します。

会員 国分寺ボランティアスタッフ 橋口 薫（東京都）

遠藤先生とお会いしたのは15年前になります。長男が小学5年生で国分寺市主催の科学センター（科学教室）にお世話になったのがきっかけでした。普段授業では中々できない実験をおもしろく楽しく学ばせて頂き、私達の学年は中学まで先生にお世話になり、高校からは先生の想いの詰まった『宇宙の学校』で子ども達と共にお手伝いさせて頂きました。

先生の笑顔の向こうには海、山、星、鳥のたくさんの自然の中の楽しいお話がいっぱいでした。素敵な時間を本当にたくさん頂きました。子ども達に囲まれている先生の姿が脳裏から離れません。きっと天国からも笑いながら私達を見て下さっているのだと思います。私達の心の中にもずっと遠藤先生と一緒にいます。まだどこかに出張に行かれています。



▲国分寺 スタッフ講習会 田中さん（左）橋口さん（中）

「宇宙の学校」教材制作とカフェ
会員 浅見 照美（東京都）

遠藤先生と私の関わりは「宇宙の学校の教材」制作でした。

教材開発委員会の先生方で検討を重ねられた内容を遠藤先生が集約され、私が理解しやすいように細かに砕いて、マンツーマンで解説いただき、そしてイラストに仕上げていくという行程でした。

打ち合わせ場所は、遠藤先生と私の住まいに便利な立川駅北口のコーヒーカフェでした。亡くなられて以来その近くを通ると「あ、先生との打ち合わせが待っている」とカフェへ駆け込もうと、心が急（せ）く事が幾度もあります。しかし「先生から教えるを乞うことはもう二度とない」と実感するたびに、悲しみでいっぱいになります。

打ち合わせ回数は数知れず。ですから先生の残された言葉や思い出もたくさんです。

こんなことがありました。教材の『土を調べる②・土の中の小さな動物たち』の解説途中のことです。自然は土に帰るとい内容の時に「生物は土に帰るんだよ、すべて」と説明されました。あの時の横顔を思い出すたびに「先生は、大好きなお花の根っこで、静かに眠っていらっしやる。」と信じております。

さてスナップ写真の説明です。2012年、12月、東京国分寺の光プラザで、撮影の途中遠藤先生は「背後霊だよー」なんて、いたずらっ子のような口調で、カメラにそーっと入ってこられました。

このように、少年のような感覚をお持ちで、純粋に夢を描き、探究心旺盛な方でした。制作に関しては妥協を許さない、崇高な知識人。もっともっとたくさんの知識を伺う予定でしたのに、惜しくて仕方ありません。



▲浅見さん（左）立川のスタッフ杉本さん



▲国分寺の三賢人 松澤先生（左）山下先生（右）

遠藤先生は、当時宇宙少年団にも関わっておられ、子どもたち対象の宇宙教育について、「ロケットや宇宙飛行士の話しが主体では、宇宙オタクを作ることになってしまふ。私たちの地球に密着した身近な内容で宇宙教育を進めるべきだ。」と話されていました。その当時から子どもたちを対象にした宇宙教育の構想があったと思いましたが、JAXAの宇宙教育センターの的川先生との交流で、小さな子供と親を対象にした「宇宙の学校」を立ち上げる事になったようです。

国分寺の教育センターで試行してみることになり、内容は国分寺科学センターの科学教室の教材の中で、低学年の子どもと親対象が幼稚園児〜小学2年生が一緒に学べる内容にして実施しました。

親子一緒にやる「宇宙の学校」は好評で終わり、次年度は定員を大きく超える応募がありました。遠藤先生の方針で全員を引き受けることになりました。

参加希望者がだんだん増え、3000家族を超えることになり、体育館で午前・午後2日の4回実施することになりました。大勢の希望者を引き受けることができたのも、遠藤先生の人柄にひかれて、科学センターの卒業生やその親がボランティアとして参加し、活動を支えてくれたことが大きな力となっていました。

宇宙の学校が全国に広がり、遠藤先生は忙しく飛び回っていて、国分寺の「宇宙の学校」で一緒に活動する機会が少なくなりさびしく感じていましたが、亡くなられたこれからは国分寺の「宇宙の学校」は今までのように遠藤先生と一緒にやってみようと思えます。



▲国分寺「宇宙の学校」スタッフと交流会

ちょっとのぞいてみよう
教材開発委員会



▲テキスト「からだの音を聞いてみよう」製作時（実験）



「宇宙の学校」のテキストはJAXA 宇宙教育センター教材開発委員会で作製されています。メンバーは教員だけでなく、色々な専門知識を持つ方々が集まり、遠藤先生を中心に製作が行われ、現在では100を超えました。全国の「宇宙の学校」で配布、全てのテキストがJAXA 宇宙教育センターのHPからダウンロード可能です。<http://edu.jaxa.jp/materialDB/?cat=13>